災プロ現地ミーティング　活動内容チェックリスト

※現場に出なければ分からない用語が多いことからスタッフ用資料としていましたが、予め一般参加者にも目を通しておいて頂くことを念頭に、公開することとしました。

2016年7月作成　2023年4月改訂

チェック欄	朝MTG	
	一般	
	自己紹介（保有する資格の内容/施術スタイルの確認）	チームであることを念頭に置いた活動であることの共有。「ただ被災地のために」。
	円皮鍼・灸の使用の有無	円皮鍼など残るものは基本的に使用しないこと、火に関して施設の許可の有無を共有。
	一床に対しての自己責任（特に片付け時の原状回復）	リネン類に皮鍼や鍼などの残留物がないか、施術ごとに確認。
	カルテの記載方法	フェイススケールの確認方法をはじめ、現物を見ながら説明。
	治療全般に関して	よくならなくても悪くしない。深追いはせずに後任に任せる。長くとも30分を目安に。
	リーダーへの相談や報告	少しでも不安を感じたり判断に迷うことがあったらリーダーへ相談。リーダーはチームで共有・相談・解決。
	予後の不安な患者さんがいた場合	基本的に情報提供同意を得た上、リーダーの判断で保健師や産業医等へ申し送り。＜実例を挙げる＞
	活動開始時の挨拶	リーダーは、支援先の施設管理者・保健師・他の医療職へ挨拶。メンバーも挨拶は大切に。
	治療の流れ	
	主訴を確認し、カルテへ記録	複数の主訴があった場合、一番つらい症状が何かを確認し、印をつけておく。
	バイタル（体温・血圧）計測し、カルテへ記録	
	フェイススケールで評価し、カルテへ記録	
	個人情報提供の可否の確認	特に初診は必須。受療者の健康を守るため、他の医療チームや地元医療機関への情報提供が目的。
	カルテの確認	気になる症状、危険な兆候、施術上気を使うべき点はないかしっかり確認してから施術に入る。
	施術	長くとも30分を目安とする。複数の主訴がある場合は全て除こうとせず、後任へ任せる。
	施術後のフェイススケールで評価し、カルテへ記録	
	精神的な問題を感じるときは保健師への相談を勧める	相談を勧めにくい場合はリーダーへ報告。打ち明けられた内容を他の専門職と共有する許可を得る。
	カルテ	
	書き洩らしはないか	日付・バイタル・既往歴・フェイススケール・主訴・処置内容・施術者名・情報共有の可否・所在地など。
	持ち帰らずに、現場で完結させる	紛失防止のため、また報告作業に支障をきたすことのないよう、必ず活動場所・時間で完結させる。
	リーダーへ報告する内容はないか再度確認	
	記録用紙	
	氏名・年齢・バイタル・症状を記載	
	情報提供の可否を記載	
	避難所外からの受療者は、居場所（避難所名・地区名など）を所在地欄に記載	
	当日活動終了時の確認事項	
	ゴミは残していないか確認	鍼のパッケージ・綿花・弁当の殻・ペットボトル。来た時よりきれいに！
	資材を残していないか確認	養生テープなどは現地のものと混ざっていないかよく確認。
	鍼を落としていないか確認	2名以上の目で確認し、確認した人の名前をリーダーが記録。
	カルテは完成しているか確認	施術後のカルテは、一度まとめて仮保管し、活動終了時に記録用紙と照合、書き洩らしの確認後ファイルへ。
	気になった受療者はいないか確認	受療者の状態の再確認のほか、施術者がインシデントの不安を抱え込んでいないかについても確認する。
	リーダーは記録用紙を保健師へ提出	情報提供拒否の方の名前を付箋で隠してコピーし、コピーを保健師へ、原本をファイルへ。
	夜MTG	
	報告の必要な受療者はいないか最終確認	いらした場合はチーム内で共有。翌日の活動開始挨拶時に忘れずに保健師または担当者へ報告する。
	困ったことはなかったか	
	足りない資材はなかったか	マスカ―・養生テープ・カルテ・記録用紙など。
	その他	
	2拠点以上に分かれた場合は、拠点リーダーを任命	拠点リーダーは保健師への報告を行う。
	避難所以外の記録用紙の報告先を確認	行政、社協、消防などでも報告先の部署や担当者を確認しておくこと。